

第45回 全国トラックドライバー・コンテスト

学科競技

問題用紙

(制限時間：60分間)

部門 4トン・11トン・トレーラ・女性

氏名

注意事項

- ① 解答はすべて別紙の解答用紙（マークシート方式）に記入すること。
- ② 解答用紙（マークシート方式）は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークすること。なお、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ③ 解答用紙に書かれている受験番号、氏名を確認すること。
受験番号は「『部門コード』 - 『ゼッケン番号（2桁（例：青森県＝02））』」となる。

部 門	部門コード
4トン部門	B
11トン部門	C
トレーラ部門	T
女性部門	W

例）トレーラ部門の青森県代表の選手の場合、受験番号は「T - 02」となる。

- ④ この問題用紙は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
- ⑤ 問題用紙を一通り見て、印刷の不鮮明なところがあれば挙手をして係員に申し出ること。
- ⑥ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑦ 試験開始45分経過後より退室してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手の妨げにならないよう静かに退室すること。一度退室したら再度入室は認めない。
- ⑧ 時間については、試験終了10分前と5分前に終了を予告をする。
- ⑨ 落とした筆記用具の拾得等、試験時間中に何らかの問題が生じた場合は、挙手をして係員に申し出ること。

I 法規 (40 問)

【4 肢択一式問題】

問 1. 「駐車」に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 人の乗降のための停止は駐車とはならない。
- イ 車の故障による継続的な停止は、やむを得ないので駐車とはならない。
- ウ 貨物の積卸しのための停止で5分を超えない時間内のものは駐車とはならない。
- エ 運転者が直ちに運転できる状態であれば、荷待ちの場合などに長時間道路上に車を止めても駐車とはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 2. 「踏切」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1. 踏切の信号機が青信号の場合、安全確認を行う必要はあるが、一時停止する必要はない。
- 2. 踏切内で故障したときは、まず故障車を踏切外へ移動することが第一で、どうしても移動できない時に踏切支障報知装置を使えばよい。
- 3. 見とおしの良い場所にある踏切で列車が接近していないことが明らかなので、一時停止せず踏切内に進入した。
- 4. 踏切の手前で警報機が鳴っていたが、遮断機が下りる前に通過できると思ったので、踏切内に進入した。

問 3. 「駐車禁止場所」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。
解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 火災報知機から 3メートル以内の部分
- イ 人の乗降、貨物の積卸し、駐車又は自動車の格納若しくは修理のため道路外に設けられた施設又は場所の道路に接する自動車用の出入口から 3メートル以内の部分
- ウ 道路工事が行なわれている場合における当該工事区域の側端から 5メートル以内の部分
- エ 消火栓、指定消防水利の標識が設けられている位置又は消防用防火水槽の吸水口若しくは吸管投入孔から 5メートル以内の部分

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 4. 「駐停車禁止場所」に関する次の記述のうち、誤っているものを 1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1. 道路のまがりかどから 5メートル以内は、駐停車禁止である。
- 2. 横断歩道の前後の側端からそれぞれ前後 5メートル以内は、駐停車禁止である。
- 3. 安全地帯の前後の側端からそれぞれ前後に 10メートル以内は、駐停車禁止である。
- 4. 踏切の前後の側端からそれぞれ前後に 5メートル以内は、駐停車禁止である。

問 5. 「追越しを禁止する場所」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。


- ア 車両通行帯の設けられていないトンネル内は追い越してはならない。
- イ 道路のまがりかどから 30メートル以内は追い越してはならない。
- ウ 勾配の急な上り坂で、見とおしもよく対向車もいなかったので速度の遅い前車を追い越した。
- エ 交差点の前後 30メートル以内は追い越してはならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問6から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 6. 山地部の道路を走行中、見とおしのきかない道路のまがりかどで警音器を鳴らした。
- 問 7. 貨物自動車に貨物を積載しているものにあつては、当該貨物を看守するために必要な最小限度の人員を荷台に乗車させて運転することができる。
- 問 8. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する際、当該安全地帯に歩行者がいたので、徐行して通過した。
- 問 9. 一方通行を通行するときは、道路の中央から右の部分にはみ出して通行できる。
- 問 10. 自動車を運転中一方通行の道路で緊急自動車が近づいてきた場合、左側に寄るとその通行を妨げると思ったので、右側に寄って徐行した。
- 問 11. 横断歩道のない場所において歩行者が道路を横断していたので、クラクションを鳴らして注意した。その結果、その歩行者が転倒してしまった。
- 問 12. 車両等は、同じ方向へ進行している他の車両等の直後を進行するときは、その直前の車両等が停止（急に停止した場合を除く。）した際に、前車との追突を避けることができるため必要な距離を保たなければならない。
- 問 13. 貨物の積卸しのため停車するときは、できる限り左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにしなければならない。
- 問 14. 車両は、道路外に出るため左折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、徐行しなければならない。
- 問 15. 荷卸先から道路へ出る際、歩道の歩行者がいなかったのでそのまま歩道を通過した。

- 問 16.  この標識のある道路を車両総重量7,980キログラム、最大積載量4,500キログラムの車両は通行できる。
- 問 17. 高速自動車国道等における車間距離の保持の規定に違反となるような行為をした場合における罰則は、3月以下の懲役又は5万円以下の罰金である。
- 問 18. 交差点以外における横断歩道、自転車横断道並びに踏切がないところで手信号による信号をしているときの停止位置は、手信号を行っている警察官や交通巡視員の1メートル手前である。
- 問 19. 標識や表示で指定のない高速自動車国道の本線車道における車両総重量が8,000キログラムで、最大積載量が4,500キログラムの貨物自動車の最高速度は、100キロメートルである。
- 問 20. 大型免許を取得した場合、中型自動車、普通自動車、大型特殊自動車、小型特殊自動車並びに原動機付自転車を運転することができる。
- 問 21. 車両総重量5,000キログラム、最大積載量2,000キログラムの車両を普通免許で運転した。
- 問 22. 最高速度が高い車両に追いつかれた場合、道路の中央との間に十分な余地がなかったため、できる限り道路の左側端に寄って進路を譲った。
- 問 23. 普通免許を取得してから通算2年（免許の効力が停止されていた期間を除く。）以上が経過すれば、中型免許の運転免許試験を受けることができる。
- 問 24. 左右の見とおしがきかない交差点に入ろうとするとき（当該交差点において交通整理が行われている場合及び優先道路を進行している場合を除く。）は、徐行しなければならない。
- 問 25. 運転免許の区分は、第一種運転免許、第二種運転免許、仮運転免許及びけん引免許の4区分である。

問 26. 停留所において乗客の乗降のため停車していた路線バスが発進するため進路を変更しようとして、手により合図をした場合においては、その後方にある車両は、その速度又は方向を急に変更しなければならないこととなる場合を除き、その路線バスの進路の変更を妨げてはならない。

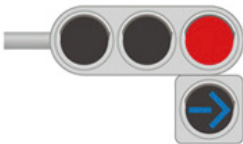
問 27.



この標識のある道路は、車両総重量が5,500キログラムの車両の通行はできない。

問 28. 道路に歩道と車道の区別のない道路において、歩行者がいたが止まってくれたので歩行者のそばをそのままの速度で通過した。

問 29.



信号機がこの表示の場合には、右折に加えて、転回もできる（転回が禁止されている交差点は除く）。

問 30. 車両（自転車以外の軽車両を除く。）の運転者が同一方向に進行しながら進路を左方又は右方に変えるときの合図を行う時期は、その行為をしようとする地点から30メートル手前の地点に達したときである。

問 31. 自動車は、法令の規定によりその速度を減ずる場合及び危険を防止するためやむを得ない場合を除き、高速自動車国道の本線車道（政令で定めるものを除く。）においては、道路標識等により自動車の最低速度が指定されている区間にあつてはその最低速度に、その他の区間にあつては政令で定める最低速度に達しない速度で進行してはならない。

問 32. 車両等を離れるときは、その原動機を止めることを要しないが、完全にブレーキをかける等当該車両等が停止の状態を保つため必要な措置を講じなければならない。

問 33. 進路前方が渋滞していたが、前に進むだろうと判断して交差点内に進入した結果、交差点内で停止してしまった。

問 34. 交差道路が優先道路であるとき、又はその通行している道路の幅員よりも交差道路の幅員が明らかに広いものであるときは、一時停止しなければならない。

- 問 35.** 道路交通法における車両とは、自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスをいう。
- 問 36.** 路線バス等優先通行帯を走行中、後方から路線バスが接近してきたので、その正常な運行に支障を及ぼさないように、すみやかに当該車両通行帯の外に出た。
- 問 37.** 徐行とはおおむね10キロメートル以下の速度をさす。
- 問 38.** 高速自動車国道を通行する際は、いかなる場合であっても路側帯を通行してはならない。
- 問 39.** 車両は、他の車両を追い越そうとするときは、その追い越されようとする車両の右側を通行しなければならない。
- 問 40.** 道路の幅が狭く車両の右側の道路上に3.5メートル以上の余地がとれない道路であったが、運転者がその車両を離れない状態で貨物の積卸しを伴う駐車をした。

Ⅱ 車両構造 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問 41. 事業用貨物自動車の「日常点検」に関する次のア～エの記述のうち、当該自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りるものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア ウインド・ウォッシャの液量が適当であり、かつ、噴射状態が不良でないこと。
- イ ブレーキの液量が適当であること。
- ウ タイヤの溝の深さが十分であること。
- エ 冷却水の量が適当であること。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 42. 「巻込防止装置等」に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1. 巻込防止装置、追突防止装置並びに前部潜り込み装置は、その性能を損なわないように、かつ、取付位置、取付方法等に関し告示で定める基準に適合するように取り付けられなければならない。
- 2. 貨物の運送の用に供する普通自動車の後面には、他の自動車が追突した場合に追突した自動車の車体前部が突入することを有効に防止することができるものとして、告示で定める基準に適合する突入防止装置を備えなければならない。
- 3. 貨物の運送の用に供する自動車（告示で定める自動車を除く。）であって車両総重量3.5トンを超えるものの前面には、他の自動車が衝突した場合に衝突した自動車の車体前部が潜り込むことを有効に防止することができるものとして、告示で定める基準に適合する前部潜り込み装置を備えなければならない。
- 4. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が8トン以上の自動車の両側面には、堅ろうであり、かつ、歩行者、自転車の乗車人員等が当該自動車の後車輪へ巻き込まれることを有効に防止することができるものとして、告示で定める基準に適合する巻込防止装置を備えなければならない。

問 43. 「停止表示機材」に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 停止表示機材による反射光及びけい光の色は、赤色でなければならない。
2. 停止表示機材は、夜間150メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものでなければならない。
3. 停止表示機材は、路面上に垂直に設置できるものでなければならない。
4. 停止表示機材は、昼間200メートルの距離からそのけい光を確認できるものでなければならない。

問 44. 「道路運送車両の保安基準」に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 自動車の長さ（セミトレーラにあっては、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離）は、12メートルを超えてはならない。
2. 自動車の高さは、空車状態において3.8メートルを超えてはならない。
3. 自動車の輪荷重は、10トンを超えてはならない。
4. 自動車の幅は、2.5メートルを超えてはならない。

問 45. 道路運送車両法で規定する「自動車」のうち、当てはまらないものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 普通自動車
2. 大型自動車
3. 大型特殊自動車
4. 小型自動車

【○×正誤式問題】

次の問 46 から問 60 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

問 46. 自動車の空気入ゴムタイヤに関し、接地部の滑り止めの溝は、タイヤの接地部の全幅のいずれの部分（ラグ型タイヤの一部部分を除く。）においても 1.6 ミリメートル以上の深さがなければならない。

問 47. 自動車には、定期点検記録簿の写しを備え置かなければならない。

問 48. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が 8 トン以上又は最大積載量が 5 トン以上のものには、速度抑制装置を備え付けなければならない。

問 49. 何人も、有効な自動車検査証の交付を受けている自動車について、自動車又はその部分の改造、装置の取付け又は取り外しその他これらに類する行為であって、当該自動車が保安基準に適合しないこととなるものを行ってはならない。

問 50. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が 8 トン以上又は最大積載量が 5 トン以上の自動車は、運行記録計を備えなければならない。

問 51. 車両総重量 8 トン以上の自動車において、「ホイール・ナット及びホイール・ボルト」の緩み及び損傷の点検は、3 月ごとに点検を行わなければならない。

問 52. 自動車の前面ガラス及び側面ガラス（告示で定める部分を除く。）は、運転者の視野を妨げないものとして、ひずみのないものであり、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が 70 % 以上であれば、透明なものでなくでもよい。

問 53. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって車両総重量が 8 トン以上のものの後面には、大型後部反射器を備えなければならない。

- 問 54. 車両総重量 8 トン未満の貨物の運送の用に供する自動車は初めて自動車検査証の交付を受けた場合の有効期間は、2 年である。
- 問 55. 長さ 6 メートルを超える普通自動車の両側面には、側方灯又は側方反射器を備え付けなければならない。
- 問 56. 事業用自動車の使用者又はこれらの自動車を運行する者は、自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に、国土交通省令で定める技術上の基準により、灯火装置の点灯、制動装置の作動その他の日常的に点検すべき事項について、目視等により自動車を点検しなければならない。
- 問 57. 空車状態とは、道路運送車両が、原動機及び燃料装置に燃料、潤滑油、冷却水等の全量を搭載し及び当該車両の目的とする用途に必要な固定的な設備を設ける等運行に必要な装備をした状態をいう。
- 問 58. 自動車の最小回転半径は、最外側のわだちについて 12 メートル以下でなければならない。
- 問 59. 日常点検を実施し、整備管理者に報告するとともに、運行管理者による運行の可否決定により運行を開始した。
- 問 60. 自動車に備える非常信号用具は、夜間 200 メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものでなければならない。

Ⅲ 運転常識 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問 61. 事業用貨物自動車の運転者に対する「点呼」(ただし、輸送の安全の確保に関する取組が優良であると認められる営業所において、国土交通大臣が定める機器による方法によるものを除く。)に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 乗務後の点呼は、対面（運行上やむを得ない場合は電話その他の方法）により行い、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況並びに他の運転者と交替した場合にあっては規定に基づく通告について報告を求め、及び酒気帯びの有無について確認を行わなければならない。
- イ アルコール検知器による酒気帯びの有無の確認は、乗務前及び乗務後の対面点呼の際に行う必要があるが、運転者の状態を目視等で確認した結果、酒気帯びのおそれがないと判断できる場合は、アルコール検知器を使用する必要はない。
- ウ 乗務前又は乗務後の点呼のいずれかが対面で行うことができない乗務を行う運転者に対しては、当該点呼のほかに、当該乗務の途中において少なくとも 1 回電話その他の方法により点呼を行わなければならない。
- エ 乗務前の点呼は、対面（運行上やむを得ない場合は電話その他の方法）により行い、① 酒気帯びの有無、② 疾病、疲労その他の理由により安全な運転をすることができないおそれの有無、③ 道路運送車両法の規定による点検の実施又はその確認について報告を求め、及び確認を行い、並びに事業用自動車の運行の安全を確保するために必要な指示をしなければならない。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 62. 「事業用自動車の運転者が遵守すべき事項」に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 他の運転者と交替して乗務を開始しようとするときは、当該他の運転者から法令に定める通告を受け、当該事業用自動車の制動装置、走行装置その他重要な装置の機能について点検をすること。
2. 乗務を開始しようとするとき、法令に規定する乗務の途中及び乗務を終了したときは、貨物自動車運送事業者が行う点呼を受け、貨物自動車運送事業者によこれらの規定による報告をすること。
3. 疾病、疲労その他の理由により安全な運転をすることができないおそれがあるときは、その旨を貨物自動車運送事業者に申し出ること。
4. 日常点検を実施し、又はその整備をすること。

問 63. 「過積載」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 過積載をすると一般的に重心が低くなり、バランスを崩しやすくなるため、走行中の左右の揺れがひどくなり走行が不安定になる。
- イ 過積載時は定量積載時よりも、トレーラ部分がトラクタ部分を押す力が大きくなるため、ジャックナイフ現象が起こりやすくなる。
- ウ 過積載に対する罰則について、車両の使用者に対する罰則の規定はあるが、荷主に対する罰則は公安委員会や国土交通大臣からの勧告等も含めて、罰則の規定はない。
- エ 過積載で走行すると通常より重量が大きくなるため、ブレーキの効きも通常より悪くなることから、ブレーキを多用する可能性も高まり、フェード現象が起こる可能性も高まる。

1. ア・イ
2. イ・ウ
3. ウ・エ
4. イ・エ

問 64. 平成 24 年中の警察庁による交通事故に係る統計に関する次の記述のうち、誤っているものを 1 つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 交通事故死者数は、初めて 4,000 人を下回った。
2. 交通事故負傷者数は、平成 23 年に続き 900,000 人を下回っている。
3. 事業用トラックが第一当事者の交通死亡事故件数は、平成 23 年に続き 400 件を下回っている。
4. 車両相互間の事故類型別の交通事故件数で、最も多いのは「追突」であった。

問 65. 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（改善基準）」に定める一般貨物自動車運送事業に従事する自動車運転者の第 3 日目における運転時間に関し、次のうち改善基準に違反しているものを 1 つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1.

	第 1 日目	第 2 日目	第 3 日目	第 4 日目	第 5 日目
運転時間	6 時間	8 時間	10 時間	9 時間	9 時間

2.

	第 1 日目	第 2 日目	第 3 日目	第 4 日目	第 5 日目
運転時間	8 時間	9 時間	10 時間	10 時間	9 時間

3.

	第 1 日目	第 2 日目	第 3 日目	第 4 日目	第 5 日目
運転時間	7 時間	10 時間	11 時間	7 時間	5 時間

4.

	第 1 日目	第 2 日目	第 3 日目	第 4 日目	第 5 日目
運転時間	6 時間	7 時間	9 時間	9 時間	9 時間

【○×正誤式問題】

次の問 66 から問 80 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 66. 車長の長いトラックは、乗用車よりもホイールベースが長いので、内輪差は小さくなる。
- 問 67. 下り坂などでフットブレーキを使い過ぎると、ブレーキドラムやブレーキライニングが過熱して、その熱がブレーキ液に伝わり、ブレーキ液内に気泡が発生し、ブレーキを踏んでも圧力がよく伝わらず、ブレーキの効きが悪くなる。この現象をベーパー・ロック現象という。
- 問 68. 時速 60 キロメートルで走行中の車が衝突した時の衝撃力は、時速 20 キロメートルの時の衝撃力と比べ 6 倍になる。
- 問 69. 運転者が一の運行における最初の勤務を開始してから最後の勤務を終了するまでの時間（フェリーに乗船する場合における休息期間を除く。）は、144 時間を超えてはならない。
- 問 70. 前方の自動車を大型車と乗用車から同じ距離で見た場合、それぞれの視界や見え方が異なり、運転者席が高い位置にある大型車の場合は車間距離に余裕がないように感じ、乗用車の場合は車間距離に余裕があるように感じる。
- 問 71. 急発進、急加速の走行や加減速を繰り返す波状運転は、通常の走行に比べて極めて燃費が悪くなるので、ゆっくり加速して早めにシフトアップしたり、速度を一定に保つ定速運転をすることがエコドライブにつながる。
- 問 72. 60 キロメートル毎時で走行中の自動車の 2 秒間の走行距離は、約 33 メートルである。
- 問 73. 労使協定があるときは、1 年のうち 3 箇月までは、1 年間についての拘束時間が 3,516 時間を超えない範囲内において、1 箇月の拘束時間を 320 時間まで延長することができる。

- 問 74.** 車両総重量が8トン未満又は最大積載量が5トン未満の事業用自動車に貨物を積載するときは、偏荷重が生じないように積載するとともに、貨物が運搬中に荷崩れ等により事業用自動車から落下することを防止するため、貨物にロープまたはシートを掛けること等必要な措置を講じる必要はない。
- 問 75.** 対向車と正面衝突のおそれが生じたときは、警音器とブレーキを同時に使い、できる限り左側によける。衝突の寸前まであきらめないで、少しでもブレーキとハンドルでかわすようにする。
- 問 76.** 業務の必要上、勤務の終了後継続8時間以上の休息期間を与えることが困難な場合には、1日において1回当たり継続4時間以上、合計10時間以上であれば、休息期間を分割することができる。
- 問 77.** タイヤの空気圧が高過ぎると、高速走行時にスタンディングウェーブ現象が発生しやすくなる。
- 問 78.** 道路交通法第67条第2項に規定する交通事故若しくは自動車事故報告規則第2条に規定する事故又は著しい運行の遅延その他の異常な状態が発生した場合は、乗務等の記録にその概要と原因を記載しなければならない。
- 問 79.** 事業用自動車の運転者が酒気を帯びた状態にあるときは、その旨を事業者に申し出なければならないが、呼気中のアルコール濃度が0.15mg/ℓ以下であれば、少量のアルコールが検知されても道路交通法の酒気帯び運転とならないので申し出る必要はない。
- 問 80.** 運行指示書を作成しなければならない運行の途中において、運行の経路に変更が生じた場合には、営業所で保管する運行指示書の写しに変更内容を記載しておけばよく、運転者の携行している運行指示書に変更内容を記載する必要はない。

第45回 全国トラックドライバー・コンテスト 学科競技解答

(公社)全日本トラック協会

選択肢				
問	1	2	3	4
1		2		
2	1			
3			3	
4				4
5		2		

選択肢				
問	1	2	3	4
41			3	
42	1		3	4
43		2		
44			3	
45		2		

選択肢				
問	1	2	3	4
61		2		
62				4
63				4
64	1			
65		2		

問	○	×
6		×
7	○	
8	○	
9	○	
10		×
11		×
12		×
13	○	
14	○	
15		×
16	○	
17	○	
18	○	
19		×
20		×
21		×
22	○	
23	○	

問	○	×
24	○	
25		×
26	○	
27		×
28		×
29	○	
30		×
31	○	
32		×
33		×
34		×
35	○	
36	○	
37		×
38		×
39	○	
40	○	

問	○	×
46	○	
47		×
48	○	
49	○	
50	○	
51		×
52		×
53		×
54	○	
55	○	
56		×
57	○	
58	○	
59		×
60	○	

問	○	×
66		×
67	○	
68		×
69	○	
70		×
71	○	
72	○	
73		×
74		×
75	○	
76	○	
77		×
78	○	
79		×
80		×

※ 問42については、正答が3つあるため、該当する3つの選択肢を全て得点とした。